

4 徳島県立文学書道館【24,509千円】

文学・書道資料の収集・保存、調査研究に努めるとともに、その成果を展示や催し、教育普及事業等に活かし、広く県内外から親しみ利用される施設となるよう魅力ある事業展開を図る。

(1) 顕彰、表彰事業【1,670千円】

	事業名	概要	金額(円)
1	第18回とくしま文学賞	<p>広く県民から文芸作品(小説・脚本・文芸評論・児童文学・随筆・現代詩・短歌・俳句・川柳・連句の10部門)を募集し、発表の場を提供することにより文芸活動の活性化、県民文化の向上を図る。各部門の入選作品は、「文芸とくしま」に掲載する。</p> <p>応募締切:9月30日(水)当日消印有効 発表:12月中旬(新聞紙上・館内掲示・HP) 表彰式:令和3年2月11日(木・祝)</p>	1,670,000
	小計		1,670,000

(2) 年鑑編集・刊行事業【330千円】

	事業名	概要	金額(円)
1	研究紀要「水脈」17号	<p>館が所蔵する文学者や書家に関する作品や資料等の調査研究を行い、その成果を紹介するために刊行する。</p> <p>B5版サイズ 700部</p>	330,000
	小計		330,000

(3) 教育普及育成事業【3,863千円】

	事業名	概要	金額(円)
1	文学講座 芸術・文化を語る	<p>徳島ゆかりの芸術家や文化人に専門分野の話をしていただき、心豊かな生き方について考える。</p> <p>日時:4月～7月(全4回・各土曜) 会場:講座室</p>	460,000
2	文学講座 大高翔の俳句教室	<p>若い世代を対象とした俳句の実作講座。高校卒業時に第1句集を出版して話題を呼んだ阿南市出身の俳人・大高翔さんを講師に迎え、句会を通して作句の基本を実践的に学ぶ。</p> <p>日時:4月～8月(全5回・各土曜) 会場:講座室</p>	600,000
3	文学講座 テーマ朗読会	<p>展覧会のテーマにちなんだ作品と「反戦」をテーマにした作品を、講座生8人程度が5分ずつ読み、一般に公開する。</p> <p>日時:5月2日(土)、7月4日(土)(全2回) 会場:講座室</p>	10,000
4	文学講座 短歌を作ろう	<p>「雲珠短歌会」代表で徳島新聞「徳島歌壇」選者でもある竹安隆代氏を講師に迎え、優れた短歌の鑑賞と実作を行う。また参加者がお互いの作品について感想を述べ合い、歌境を深める。</p> <p>日時:9月～2月(全6回・各土曜) 会場:講座室</p>	220,000

(3) 教育普及育成事業

	事業名	概要	金額(円)
5	第19回言の葉朗読会	朗読を楽しみ、朗読の質の向上をめざす人たちに舞台を提供し、朗読を聞くことが好きな人たちにその機会を設ける。朗読愛好家がそれぞれ選んだ文学作品を5分以内で朗読する。 日時: 9月19日(土) 会場: 講座室	10,000
6	文学講座 秋の文学講演会	第一線で活躍している作家、詩人、歌人、俳人などを招いて、これまでの歩み、自作について、創作の方法などのテーマで話してもらい、文学と芸術、世界と人間の在り方について理解を深める。 日時: 10月～11月(全2回) 会場: ギャラリー	500,000
7	文学講座 古典を読む「奈良・平安時代の恋の歌」	『万葉集』や『古今和歌集』、『源氏物語』、『伊勢物語』などの中から、奈良・平安時代に詠まれた恋の歌を紹介する。 日時: 11月～2月(全4回・各土曜) 会場: 講座室	100,000
8	書道講座 書道創作講座 篆書・金文	書体別の創作講座。これまで「楷書」「行書」「草書」「篆書」を開催したが、受講者に好評だった「篆書」を本年度に続いて開催する。篆書体のうち、本年度の「小篆」より古い時代の「金文」を題材とする。 日時: 7月11日、18日、8月1日(全3回、各土曜) 会場: 実習室	67,000
9	書道講座 篆刻 一字印を作ろう	名前や雅号の一字を12mm角の石印材に刻し、葉書や色紙に押印できる実用的な印を製作する。 日時: 9月12日、26日(全2回・各土曜) 会場: 実習室	53,000
10	書道講座 インテリアの書を創作しよう	芸術作品としての書ではなく、現代的で気軽に部屋に飾ることができる書を制作する。書をより身近に感じてもらい、書に親しんでもらう。 日時: 未定(全3回) 会場: 実習室	67,000
11	書道講座 名前を美しく書こう	芳名録や祝儀袋など、自分の名前を毛筆で書く機会は少なくない。そうした実生活に生かせる名前の美しい書き方や技法を学ぶ。 日時: 未定(全2回・各日曜) 会場: 実習室	53,000
12	書道講座 書の鑑賞—読まずに楽しむ書の世界	書は一般的に「読めないから分からない」と言われることが多い。しかし、読めないと書が鑑賞できないわけではない。本講座では、さまざまな分野の作品を紹介し、書を鑑賞するためのポイントを分かりやすく解説する。書の表現方法や美しさについて理解を深め、書に親しんでもらう。 日時: 未定 会場: ギャラリー	182,000

(3) 教育普及育成事業

	事業名	概要	金額(円)
13	書道講座 新春 書き初め 大字に挑戦!	小学生対象の講座。新年の書き初めにちなんで、漢字一字を特大筆(全長46cm・穂長14.5cm・穂径4cm)で68×70cmの紙に書く。大字を書くことで、書に親しみ、書の楽しさを知ってもらう。 日時:1月11日(月・祝) 会場:講座室・実習室	41,000
14	ことのはロビーコンサート	従来の文学・書道ファンだけでなく、より多くの県民に文学書道館の存在を知ってもらい、さらに足を運んでもらって、文学・書道と音楽の深いつながりを気軽に楽しく体感してもらう。実施日を展覧会の開催期間と重ねることで、観覧者増も図る。 日時:5月～3月(全6回・各日曜) 会場:1階ロビー	1,500,000
	小計		3,863,000

(4) 展示事業【18,646千円】

	事業名	概要	金額(円)
1	文学常設展 瀬戸内寂聴記念室 (常設展示事業)	瀬戸内寂聴の人生の歩みと寂聴文学を紹介する。嵯峨野「寂庵」を模した書齋や、心和む日本庭園を設置している。また、年1回程度の展示替えを行っている。 期間:通年 会場:瀬戸内寂聴記念室	
2	文学常設展 文学常設展示室 (常設展示事業)	徳島の人・場所・文化が織りなす文学回廊。徳島ゆかりの文学者とその作品、著名作家が徳島を描いた文学作品などをさまざまな角度から紹介している。展示室では、年2回の企画展も開催している。 期間:通年 会場:文学常設展示室	
3	文学常設展 収蔵展示室 (常設展示事業)	瀬戸内寂聴寄贈による日本近代女性史の貴重な研究資料など、豊富な資料を保管している収蔵庫内をガラスウォールを通して公開している。また、特別展に関連した展示や収蔵品を紹介する。 期間:通年 会場:収蔵展示室	
4	書道常設展 書道美術常設展示室 (常設展示事業)	収蔵品の中から、徳島ゆかりの書家の作品を中心に展示している。また、小坂奇石の息づかいが感じられる書齋を再現している。 年3回展示替えをし、豊富な作品を幅広く紹介する。 期間:通年 会場:書道美術常設展示室	
5	文学特別展 いのち—90代の寂聴文学 (特別展示事業)	90代に執筆した作品や著書を展示し、年老いてもなお旺盛な執筆意欲を示す寂聴の生きる姿勢を紹介する。文学だけにとどまらず、平和のために行動し、若者と交流する姿なども資料や写真で紹介する。また寂聴文学の初めてのシンポジウム「寂聴サミット」の様子もDVDで上映する。 期間:4月9日(木)～5月24日(日) 41日間 会場:特別展示室・ギャラリー・収蔵展示室	2,475,000

(4) 展示事業

	事業名	概要	金額(円)
6	書道特別展 真っすぐな書家 小坂奇石の書と生涯 (特別展示事業)	小坂奇石(1901～91年)は、独創的で他の追随を許さない独自の書風を確立した、昭和を代表する書家である。当館では、遺族より寄贈された作品を中心に約500点を収蔵しており、毎年それらの中から選りすぐりの作品を紹介している。書家として知られる奇石だが、書の本質を追求したその生涯についてはあまり知られていない。今回は、書家・小坂奇石の生き方に着目し、作品とともに紹介する。 期間:6月19日(金)～8月5日(水) 41日間 会場:特別展示室・ギャラリー	1,227,000
7	文学特別展 詩人・吉野弘の世界展 (特別展示事業)	日常を見つめ、生きることの喜びや悲しみを磨き抜かれた言葉で表現した詩人・吉野弘(1926～2014年)。人を思いやる不器用な娘の受難をうたった「夕焼け」、結婚披露宴のスピーチでよく取り上げられる「祝婚歌」など、温かでウイットに富んだ詩は多くの人々の共感を呼んでいる。戦後の代表的な詩人の一人であり、今なお愛され続ける吉野の作品世界を紹介する。 期間:8月9日(日)～9月27日(日) 45日間 会場:特別展示室・ギャラリー	2,765,000
8	書道特別展 文字の美 —柳宗悦がみつめたもの (特別展示事業)	民衆の暮らしの中で使われていたものに美を見だし、「民藝」と名付けて、その価値を広めた思想家・柳宗悦(1889～1961年)。柳の審美眼は書にも向けられ、独自の書論によって、個人を超えて模様化された書を「工芸的な文字」と呼び、その美しさを称賛した。柳が収集し、日本民藝館が所蔵する拓本や、文字が施された絵画、陶磁器、木工品、染織品などを展示し、芸術書道とは異なる文字の美しさを紹介する。 期間:10月2日(金)～11月15日(日) 39日間 会場:特別展示室・書道美術常設展示室	5,637,000
9	文学特別展 明治の翻訳家・井上勤の西洋奇談 (特別展示事業)	徳島に生まれた井上勤(1850～1928年)は、ジュール・ヴェルヌ「月世界旅行」、トマス・モア「ユートピア」、シェイクスピア「ヴェニスの商人」、「アラビアンナイト」など今日でも広範な読者を持つ名著の翻訳を日本でいち早く手がけた。日本の翻訳黎明期に、多大な功績を残した徳島人・井上勤の生涯と業績を紹介する。 期間:12月12日(土)～2月11日(木・祝) 47日間 会場:特別展示室・収蔵展示室	2,930,000
10	書道特別展 古武士の風格 富永眉峰の書と俳句 (特別展示事業)	富永眉峰(1905～87年)は、戦後の草創期から県書壇を牽引し、1953年に48歳で県人初の日展入選を果たした。炭山南木に師事し、師の高い技法に裏付けられた秀麗かつ骨力に富む行草作品に魅力があった。さらに書の制作のほか俳句を詠み、句集も上梓した。書家で俳人でもあった眉峰の書と俳句を紹介する没後初の回顧展。 期間:2月16日(火)～3月21日(日) 34日間 会場:特別展示室・書道美術常設展示室	1,739,000
11	文学企画展 佐野まもる展 (企画展示事業)	徳島市生まれの俳人・佐野まもる(1899～1984年)は、水原秋桜子に師事し、「馬酔木」で活躍したほか、徳島で俳誌「海郷」を主宰した。佐野の人となりや作品を直筆の短冊や雑誌などの資料とともに紹介する。 期間:6月16日(火)～8月30日(日) 67日間 会場:文学常設展示室	410,000

(4) 展示事業

	事業名	概要	金額(円)
12	書道企画展 梧竹さんの“へんてこりん”な書 (企画展示事業)	中林梧竹は近代書道史に名を連ね、明治の三筆に挙げられる書家である。当館では、梧竹の支援者であった海老塚的伝氏より寄贈された傑作を中心に約300点を収蔵しており、毎年テーマを変えて梧竹の作品を紹介している。梧竹は、現代のように芸術的な書が確立されていなかった明治時代に書家として活動し、現代にも通じる創造性豊かな作品を数多く残している。今回は、子供たちにも楽しんでもらえるよう、ユニークな字形を用いた作品を展示する。 期間:6月16日(火)~9月27日(日) 91日間 会場:書道美術常設展示室	229,000
13	文学企画展 生誕100年 歌人・柏原千恵子展 (企画展示事業)	2020年に生誕100年を迎える歌人・柏原千恵子(1920~2009年)は、歌誌「七曜」主宰、徳島新聞「徳島歌壇」選者を務め、徳島を代表する女性歌人として長く第一線で活躍した。繊細かつ鋭敏な感性で、自己の内面を深く見つめる短歌を詠み続けた千恵子の人生と業績を紹介する。 期間:11月7日(土)~2月7日(日) 74日間 会場:文学常設展示室	459,000
14	書道企画展 第5回 書道創作グランプリ (企画展示事業)	徳島県内の小学校4年生から高校3年生までを対象とする書道コンクール。作品応募による予選を行い、予選通過者を対象に当館で本選を実施。本選当日に課題を発表し、お手本なしで創作する全国でも稀なコンクールである。席書作品270点(各学年30点。高校は「漢字」「漢字仮名交じり」「仮名」の3部門各30点)と招待出場者(これまでのグランプリ受賞者、準グランプリ2回受賞者)の作品を展示し、各学年・部門のグランプリ、準グランプリ、金賞受賞者約90人を表彰する。 期間:11月28日(土)~12月9日(水) 10日間 会場:ギャラリー	702,000
15	書道企画展 「今年の一字」展2020 (企画展示事業)	「一年を振り返って、今年を象徴する漢字一字、あるいは思い出に残る漢字一字」を募集し、全ての応募作品をロビーに展示する。作品は、葉書大とし、毛筆で書いたものとする。 期間:12月12日(土)~27日(日) 14日間 会場:1階ロビー	73,000
	小計		18,646,000
	合計		24,509,000